

研究

次目

地理参考書

第一回

味村 實 鈴木しづゑ 伊藤こま
石井 朝 石橋きく 中條ユウ
田中 くに 中川たけ 武藤ヨネ
村瀬 久子 山口小静 松原チエ
正木 むら 赤木多木代 鹽井勝子
關 ふよ

善子

何時の間にか私は心の中で唱歌して居た。

それは、よく、ふいさ心に浮んで来る節であるけれど、
その曲名は思ひ出さなかつた。同じ事をくりかへしくりかへし、何心なく幾丁が来たのである。

来て後に、あゝ自分は今迄歌をうたつて居ただけ、思つた。

飛行機

晶子

あれあれ通る飛行機

今日も巴里をすちかひに

風切る音をふるはせて

身軽なこなし高々

羽をひろげたよい形

オペラ眼鏡を目にあて、

空を踏まへた臆太の

若い乗手を見上ぐれば

少し捻つた機體から

きらきら反射の金が散る

若い乗手のいさまじさ

後ろを見捨て死を忘れ

片時やまぬあたらしい

力まなつて飛んで行く

前へ未来へまじぐらに